



DANRYU

世界と鹿児島交流情報誌「暖流」No.49 / March 2022

発行（公財）鹿児島県国際交流協会 Kagoshima International Association

写真提供：鹿児島県

～鹿児島で世界を語ろう～第27回外国人による日本語スピーチコンテスト



【本選出場者と審査員】

今年度の日本語スピーチコンテストには、22名（10カ国）の県内在住の外国人から応募があり、その中から予選を経て本選に進んだ9名（6カ国）が、令和4年1月29日にそれぞれのスピーチを発表しました。

最優秀賞を受賞したのは、『分断の世界に生きる』というタイトルでスピーチをした、アメリカ出身のバージェスキーンさんです。差別による分断について、リアルな思いを発表してくれました。アメリカの人種差別の問題には、自分の家族や大切な友達も当事者であることや、だからこ

そ理解できるそれぞれの立場について語り、バージェスさん自身が日本で経験した差別にも触れながら、人種差別の問題の解決には、身近な人達と優しくつきあっていくことが必要だという思いを伝えてくれました。難しい社会問題を日本語で語り、聴衆の心に届くスピーチとなりました。

ベトナム理解講座



【講座の様子】

県内在住外国人のうち人数が1番多い国ベトナムについて、ベトナム出身者を講師として民族・文化・生活・言語等多岐にわたる実情を学び、ベトナムへの理解を深める講座を県内4か所（いちき串木野市、薩摩川内市、鹿屋市、指宿市）でそれぞれの市と連携して開催し、延べ128名の参加がありました。

講座の前半は、講師のイエンさんがベトナムの概要についての講話を行い、後半はゲストとしてお招きした各市在住のベトナム出身の方々より、出身地域を「ふるさと紹介」と題して発表いただきました。

参加者から「ベトナムについて詳しく知らなかったですが、いろいろなことを知ることが出来て良かったです。」「日本に来られて頑張っておられる姿を見て大変感謝しております」などの感想をいただきました。

参加者の皆様にとって、ベトナムについて理解を深め、また身近にいらっしゃるベトナム出身者とのコミュニケーションをはかる際に参考となる講座になったのではないのでしょうか。

在住外国人のための防災対策支援事業



【危険地域をグループで確認する様子】

10月から11月まで全4回、さつま町と共催で、さつま町及び周辺地域にお住まいの日本人及び外国人を対象とした、「在住外国人のための防災対応支援事業」を開催しました。

各講座を通じて、日本人29名、外国人25名の参加がありました。

在住外国人向けには、日本の災害や防災対策について学ぶ基礎講座を実施し、在住外国人支援のための日本人向けには、災害時の外国人へのサポート手法や多文化共生について理解を深める講座を実施しました。

また、4回目は合同講座とし、それまでの講座を受講した外国人と日本人が共同して、さつま町のハザードマップを見ながら、危険箇所、避難場所や避難経路をグループで話し合いながら確認しました。

参加者からは、「外国人の方が災害時に何が一番困るのか理解できた」、「顔を知っているだけで話しかけやすい関係になれると思った」などの感想をいただきました。

今回の事業が、平時からの顔の見える関係づくりのきっかけとなり、災害時における外国人支援につながるよう願っております。



【消火体験の様子】

公募型国際理解講座



【講座の様子】

本事業は、公募により、県内に在住する外国人の方に講師となつていただき、県民の方々へ自国の文化を紹介することを通じて、在住外国人の方々が積極的に多文化共生の地域づくりに関わることを目的としています。

例年、鹿児島市のかごしま県民交流センターで標記事業を実施していましたが、今年度は、センターだけでなく「地域がつながる公募型国際理解講座」と題し、県内各市町村に在住する外国人の方が講師となり、その地域において講座を開催する予定としておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、

残念ながら各市町村での講座開催は見合わせることとなりました。

一方、かごしま県民交流センターでは、マレーシアと台湾ご出身の方に講師になっていただき、2つの地域の文化紹介講座を開催しました。

各講座では、それぞれの地域の基本的な事柄の紹介だけでなく、その国の伝統楽器の演奏や伝統的な工芸品を使ったキーホルダーづくりを行うなどバラエティーに富んだ内容となりました。いずれの講座についても講師がユーモアを交えながら楽しく自国についての紹介を行い、参加者との交流を深めながら和やかな雰囲気で行われました。

参加者からは「異文化に関心を持った」、「一度は行ってみたいくなった!」や「知らないことをたくさん勉強できて嬉しかった」などの感想をいただき、楽しみながらそれぞれの地域への理解を深めていただけたようです。

今後も、当事業が県民の皆様と在住外国人の皆様の交流や相互理解の場となることを期待しています。



【講座の様子】

全羅北道文化交流事業



昨年度から実施しているこの事業は、今年度、鹿児島から全羅北道へ赴いて鹿児島の紹介を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながらオンラインでの講座になりました。

全羅北道の会場には、子どもから大人までの22名の道民の方が参加していただき、第1部では鹿児島県観光連盟による鹿児島の自然や観光などの紹介を楽しんでいただきました。

第2部は、屋久杉を使ったペンダント作りを体験し、紙やすりで木を削る作業は大変だったようですが、皆さん楽しみながら作

品を作っていました。

参加者からは、「コロナが収束し、鹿児島への飛行機の運航が再開したら家族と一緒に鹿児島を訪問し、鹿児島の自然を満喫したい」「初めての日本旅行は、鹿児島に行きたい！と思うきっかけになりました」「屋久杉ペンダント作りも楽しかったです。触り心地が良かったです」などの感想をいただきました。

令和4年度は鹿児島に全羅北道の講師の方が来られ、全羅北道の文化などについて紹介していただく予定です。皆様楽しみにしててください。

英語絵本のよみかたり



「英語絵本のよみかたり講座」は、英語への関心を高めてもらうことを目的に県国際交流員が講師となって幼児期の子どもとその保護者の方を対象に実施しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により南九州市立額姪図書館での出張講座のみの開催となりました。

本講座では、毎回、英語絵本の読み聞かせだけでなく英語の手遊び歌やゲーム、工作等をして楽しく英語に親しんでもらえるプログラムを準備しています。出張講座に参加した子どもたちからは、絵本の読み聞かせに耳を傾け、音楽に合わせて身体を動かす

など活発な雰囲気が見られました。また、保護者からは「とても楽しく英語を学ぶことができた」といった感想も聞かれました。

今後は、この講座が楽しく英語に触れる機会として、一人でも多くの子どもに受講してもらえるよう県内各地での開催に努めていきたいと思えます。

国際交流員による文化紹介講座



令和3年度は、南九州市にて、韓国出身の県国際交流員による『韓国文化紹介講座』を開催し、19名の方々にご参加いただきました。講座の前半では、韓国の基本情報や文化の紹介があり、後半には料理講座が開かれ、国際交流員に作り方のコツを聞きながら、韓国料理のチヂミとキンパを実際に調理しました。参加者からは、「キンパは見た目は巻き寿司に似ているが、ごま油の香りがきいておいしかった」といった感想や、「どちらも材料をアレンジして、自宅でまた作ってみたい」といった声が聞かれ、楽しんでいただけたようでした。今後も多くの県民の皆様へ国際理解・国際交流への理解を

深めていただくべく、県内各地で講座を開催していきたいと思えます。

ランチタイムトーク



県民の方々と県国際交流員が母国語（韓国語、中国語、英語）を使って、外国文化の紹介や参加者と自由なおしゃべりを楽しむランチタイムトークを実施しました。

韓国語ランチタイムトークでは、韓国の習慣や音楽、観光名所などの文化紹介や、伝統衣装のキーホルダー作りなど、幅広く韓国文化に触れました。中国語ランチタイムトークでは、鹿児島大学の留学生の協力をいただき、講座を実施しました。中国と日本の国民の祝日の過ごし方について話したり、中国料理や、中国の歌の紹介など、

中国の文化について参加者同士で意見交換したりして楽しみました。ランチタイムイングリッシュクラブでは、一つのトピックについて参加者同士で、英語でディスカッションをしたり、ゲームをしたりして英語に触れる機会を楽しみました。

今後も県民の方々が直接、外国の文化に触れ、国際交流が広がっていくことを期待しています。

日本語・日本理解講座



鹿児島で生活する外国人が、生活に役立つ日本語や日本人の習慣などについて学ぶ「在住外国人のための日本語・日本理解講座」を令和3年5月から令和4年2月まで全60回（水曜昼間クラス30回、木曜夜間クラス30回）実施しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、従来のディスカッション形式ではなく、受講者同士の距離を保った学校形式で行いました。講座では、少人数に分かれて、日本文化に関する文章を読み、語彙の習得をしたり、学んだ語彙や文法を使って日本語ス

キットを作り、発表会をしたりと様々な側面から日本語を学びました。受講生からは、「実用的で生徒に関連のあるトピックを選んでもくれたので便利な表現を学ぶことができた」、「もっと勉強して日本語を話せるようになりたい」などの意見をいただき、日本語学習に意欲的に取り組んでいる様子が伝わってきました。

日本語サロン おしゃべりひろば



日本語での日常会話が可能な外国人を対象に、ネットワークづくりや日本語の上達を目的とした「日本語サロンおしゃべりひろば」を今年度は全7回行いました。

「習字体験」や「8月のお盆」をテーマに、日本文化に触れる機会や、おしゃべりひろばの参加者自身が講師となって「食べ物と健康」をテーマに会話を広げる回もありました。また、鹿児島市感染症対策課の方より、「感染症」についてお話しをいただいたり、マナー講師の方と、「結婚式とお葬式」について学んだり、日常生活での幅広い話題について

みなさんとおしゃべりしました。

参加者からは、「みんなと知り合いになれて楽しかった」、「日本の文化や母国以外の文化のことを聞けてよかった」、「みんなと一緒に話す良い機会だ」という声が寄せられました。

おしゃべりひろばをきっかけに参加者同士の輪が広がり、日本語学習の意欲にも繋がっていくことを期待します。

協力隊 OB と留学生が先生事業



【小学校で授業をする様子】

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県 OB 会と当協会の3団体で実施しているこの事業では、年間約40校の小・中学校に青年海外協力隊として活動していた帰国隊員や県内在住の留学生などの外国人を講師として派遣しています。派遣先の学校では、協力隊 OB による海外での活動体験の話や外国人との交流により、国際協力・国際理解を学ぶことを目的にしています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、従来の交流型の授業はできませんでしたが、写真や動画を使って現地での体験や

各国の紹介や、民族衣装の紹介などを行い、教科書だけでは知り得ない事柄を伝えました。

今年度実施した35校の約2000名の児童・生徒からは「他の国についてもっと知りたくなった」「知らないことが沢山あった」「大人になったら協力隊として海外で活躍したい。」などの感想をいただきました。

この事業が、国際協力や途上国に対する理解を深め、国際性豊かな人材を育成するだけでなく、自分の将来について考える良い機会となっているようです。

留学生緊急生活支援事業

令和3年5月1日現在、鹿児島県内に居住し、県内の大学等に在籍する外国人留学生を対象にコロナ禍での生活が困難になっている外国人留学生を支援するために商品券給付を行いました。

給付の原資は、長年留学生を支援され、「留学生のお姉さん」と慕われていた東文字氏のご遺族からいただいた寄付金を充て、県内大学等の協力をいただき、9大学等の383名の留学生に商品券をお渡すことができました。

給付を受けた留学生からは「留学生を支えた東さんのことを知り感動しました。支援に感謝し、さらに学業に取り組みたい」などの声が聞かれました。

長引くコロナ禍で、日本人学生も留学生も生活上の困難を抱えつつ勉学に励んでいます。当協会としては、今回の支援のみならず、留学生の研究活動への支援や資金の貸付事業などに引き続き取り組み、日本での生活がより良いものとなるよう留学生を応援いたします。

これからも留学生の皆さんが困難を乗り越え鹿児島と母国との懸け橋となることを期待しています。

外国人相談窓口対応研修



【講座の様子】

12月3日、自治体や福祉団体・各種学校等の担当者の方などを対象に、外国人住民からの相談対応について学ぶ講座を講師とオンラインで結んで実施しました。(公財)兵庫県国際交流協会にて豊富な経験のある村松紀子氏を講師に44名の方が受講しました。

村松氏からは『外国人の生活相談とは』や『情報提供・相談の原則』等、相談対応の基礎知識が学べる実践的な講話をいただきました。また、会場では、福岡出入国在留管理局及び同局鹿児島出張所の方から「在留資格の基礎情報及び出入国在留管理局に関する最新情報」

について、また当協会からは「外国人総合相談窓口の概要について」の発表を行いました。参加者からは、「外国人の方に対する対応の仕方や考え方が分かりよかったです。業務に活かしたい。」などの感想が寄せられました。

JICA 情報

世界もあなたも、可能性に満ちている。

【JICA 海外協力隊】

JICA 海外協力隊とは、開発途上国からの要請に基づき、青年海外協力隊等として派遣され、現地の人々と共に途上国の課題解決に取り組むことを目的としています。

* 鹿児島県は、青年人口10万人当たりの派遣者数全国1位！これまでに、984名が鹿児島から世界へと飛び立っています。

【国際協力を仕事にしたい、。そんな方へ！】

国際キャリア総合サイト「PARTNER」では、国際協力・国際キャリアに関する情報が掲載されています。さらなるキャリアアップを目指したい方、国際協力の分野で グローバルに働きたい方、ぜひ一度ご覧ください。

また、中学・高校生向けサイト「ROOKIES」では、国際協力の多様な関わり方や、国際協力に関わる人たちのリアルを発信しております。日本全国の同世代と共に、国際協力の一步を踏み出してみませんか？

● 鹿児島県国際交流協会内に JICA 事業の窓口として「JICA デスク鹿児島」が常駐しています。

● お気軽にお問合せ下さい。(オンライン対応可)

● < JICA デスク鹿児島 > TEL : 099-221-6624 E-mail : jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp



PARTNER
QR コード



ROOKIES
QR コード



国際交流プラザのご案内

- ・ イベント情報等の掲示板
- ・ 国旗、民族衣装、地図、ユニセフビデオの貸し出し
- ・ 外国語新聞、図書、雑誌等の閲覧
- ・ 中国語ランチタイムトーク (毎週火曜12:00 ~ 12:45)
- ・ 韓国語ランチタイムトーク (毎週水曜12:30 ~ 13:15)
- ・ ランチタイムイングリッシュクラブ (毎週金12:00 ~ 12:45)

○国際交流に関するご質問や、ホストファミリー・語学ボランティアの登録については、随時受け付けております。お気軽にお立ち寄りください。

【外国人総合相談窓口】

外国人総合相談窓口では、県内にお住まいの外国人の方々からの各種相談に応じています。

○相談方法：面接、電話、メール、Facebook メッセンジャー

TEL : 070-7662-4541 Email : kiasoudan@gmail.com

○相談窓口 Facebook : <https://www.facebook.com/Kiasooudan>

○対応言語：22言語 日本語、英語、ベトナム語は相談窓口で対応します。

その他の言語は、多言語コールセンターを活用します。

【民間団体活動等助成事業】

県内の民間団体が実施する国際交流・国際協力・国際理解活動に対し助成を行っております。詳しくは当協会までお問い合わせください。

○助成について：旅費を除く直接経費の2分の1以内(但し、上限額あり)



相談窓口 Facebook
QR コード



民間団体活動等助成
事業の詳細はこちら

【国際交流プラザ、本誌に関する問い合わせ先、相談窓口】 公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

〒892-0816 鹿児島市山下町14番50号 かがしま県民交流センター1階

TEL: 099-221-6620 / FAX: 099-221-6643 E-mail: kia@kiaweb.or.jp

HP: <https://www.kiaweb.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc/>

《開館時間》9:00 ~ 17:00 (火曜日~日曜日) 《休館日》月曜日(但し祝日の場合はその翌日) / 年末年始(12月29日~1月3日)

